

『物質文化』、『貝塚』執筆要項

1. 執筆原稿について

(1) 執筆原稿の種類

研究論文、研究ノート、調査報告、資料紹介、書評、その他（博物館・研究所探訪、著名研究者の近況や訃報、等）で、物質文化研究と関係する内容であること。

最終的な採否および割り振りは編集委員会で決定する。

(2) 執筆原稿の分量

① 図版類を含み 40 字×40 行用紙で、研究論文は上限 20 枚、研究ノートは上限 10 枚、調査報告、資料紹介、書評、その他は上限 5 枚とする。

* なお上限枚数を超える場合は、あらかじめ編集委員会に相談すること。

② 図版・写真については全体の 3 割以内を目安とし、希望の位置とサイズを付記すること。

(3) 使用言語

原則として日本語。

(4) 論文体裁

原稿は、Microsoft Word 形式、1 ページ 40 字×40 行、横書きにて A4 判紙に本文 10.5 ポイント、註釈と文献は 9 ポイントで印刷する。

句読点は「、」「。」をもちいる。

- (a) 論文は、①和文表題、②著者名、③その所属、④400 字以上 800 字以内の和文要約、⑤3～5 語の和文キーワード、⑥本文（見出し、註も含む）、⑦文献、⑧英文表題を順に記載する。各項目の間は 2 行空ける。
- (b) 研究ノートは、①和文表題、②著者名、③その所属、④3～5 語の和文キーワード、⑤本文（見出し、註も含む）、⑥文献、⑦英文表題を順に記載する。各項目の間は 2 行空ける。
- (c) 書評は、①編・著者名、②書名（副題、版数を含む）、③出版地、④出版社、⑤刊行年、⑥総頁数、⑦定価、を明示し、⑧本文（講評）の後、⑨必要に応じて文献を記載する。各項目の間は 2 行空ける。
- (d) 調査報告、資料紹介、その他は、①和文表題、②著者名、③その所属、④本文（見出し、註も含む）、⑥文献、⑦英文表題を順に記載する。各項目の間は 2 行空ける。
- (e) 英文ないしその他の外国語で要旨を付ける場合は著者においてネイティブチェックを受け、文献のあとに添付すること。

(5) 註・引用参考文献

註および引用参考文献の一覧については、すべて原稿の最後に一括する。

註については、本文中に通し番号でその場所を示すこと。

引用や参考文献については下記の表記法の事例を参考：

表記法の事例

<本文記載例>

- 川田順造は口頭伝承と考古学資料の違いについて論じている (1976: 12-14)。
ラピタ土器は 3000 年前にさかのぼる (石村 2009: 101)。
インゴルド (Ingold) によると人類学は生に向かう学問である (2011)。
人間の認知においてモノは本質的に関わる (Boivin 2004: 64-67)。

<引用文献記載例>

愛知県埋蔵文化財センター

- 2010 『朝日遺跡』、愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 3 号、財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団。

川田順造

- 1976 『無文字社会の歴史』、河出書房 (1990 年、岩波書店)。
2008 『もうひとつの日本への旅—モノとワザの原点を探る』、中央公論新社。
2011 「ヒトの全体像を求めて——身体とモノからの発想——」『年報人類学研究』
第 1 号 : 1-57

石村智

- 2009 「ラピタ土器」、遠藤央・印東道子・梅崎昌祐・中澤港・窪田幸子・風間計博編
『オセアニア』、京都大学出版会、101-103 頁。

ルロワ=ゲーラン、アンドレ

- 1973 『身ぶりと言葉』(荒木亨訳)、東京書籍 (2012 年、筑摩書房)。

遼寧省文物考古研究所

- 2002 『三燕文物精粹』、遼寧人民出版社。

Boivin, Nicole

- 2004 Mind over matter?: collapsing the mind-matter dichotomy in material culture studies.
In: E. DeMarrais, C. Gosden and C. Renfrew (eds.), *Rethinking Materiality: the Engagement of Mind with the Material World*. Cambridge: McDonald Institute for Archaeology, pp. 63-81.

Hicks, Don and Mary C. Beaudrey (eds.)

- 2010 *The Oxford Handbook of Material Culture Studies*. Oxford: Oxford University Press.

Ingold, Tim

- 2011 *Being Alive*. London: Routledge.

Lemonnier, Pierre (ed.)

- 1993 *Technological Choices: Transformation in Material Cultures since the Neolithic*.
London: Routledge.

(6) その他執筆要項の細部については編集委員会にて決定する。

2. 印刷形式について

- (1) 本誌はB5判、横二段組み、白黒印刷である。
- (2) 図版・写真
 - ①写真・図版の挿入箇所を指定し、レイアウト案をPDFにして原稿とともに送付すること。ただし、編集委員会において確認・調整を行うこともある。
 - ②版面は1頁の場合、縦 210 mm×横 140 mm (キャプションを含む) とする。
 - ③図版の提出にあたっては以下の点に留意すること。
 - a. トレース済みの完全版下とし、縮尺・写植・見出し等の指示を入れる。
 - b. 典拠を明記すること。ただし、執筆者自身の原図・表の場合には断る必要はない。
 - ④写真の提出にあたっては以下の点に留意すること。
 - a. 写真は、焼き付けもしくはスライドで提出し、写植・見出し等の指示を入れる。
 - b. 典拠を明記すること。ただし、執筆者自身の撮影による場合には断る必要はない。
 - ⑤図版をデータで提出する場合には、③の事項に加え、以下の点に留意すること。
 - a. 図版の解像度は1200dpi とすること。
 - b. 図版を作成するソフトはイラストレーターもしくはイン・デザインとする。
 - c. 入力時の条件は、モノクロ2階調とする。
 - d. 1200dpi で加工ができない場合は、版下とする1200dpi の未加工の画像データとともに、解像度を落とした画像データを用いたレイアウト見本(縮尺・キャプション・挿図番号等を入れた完全版下の見本)を作成し、添付すること。その場合には、ソフトの種類は問わない。
 - e. 縮尺を統一したい場合には、上記②の版面を基準にして各自で作成し、必ず仕上がりサイズを指示すること。
 - f. 図版中に縮尺を入れている場合、仕上がりサイズの指示がなければ、編集委員会において任意の縮尺で割り付ける場合がある。
 - g. 図版中に縮尺がなく、仕上がりサイズの指示もない場合には、編集委員会において、任意の縮尺で割り付ける。
 - ⑥写真をデータで提出する場合には、④の事項に加え、以下の点に留意すること。
 - a. 解像度はカラー画像の場合350dpi、モノクロ画像の場合300dpi とする。
 - b. 保存形式はtifもしくはjpegとする。
 - c. 画像中に文字や記号を入れる場合には、④-bに準ずる。
 - ⑦著作権にかかわる場合には、執筆者の責任において処理すること。

3. 提出・校正について

- (1) 原稿はMicrosoft Word ファイル形式による完成原稿にて提出をすること。
- (2) PDFにしたレイアウト案は、それをもって査読するので、氏名・所属は記載しないこと。
- (3) 原稿のプリントアウトとともに、CD-ROM、USBメモリ等でデジタルファイルを提出すること。

インデント、タブ等の書式情報、図、表、写真の挿入箇所もプリントアウト原稿に赤で書き込んで示すこと。

ファイルは、(a) 本文、要旨、キーワード、文献など、(b) 図・表・写真、(c) 図・表・写真のキャプションと分けて保存すること。

(本要項は2023年6月1日現在のものである)